

学校だより

Vol. 79

2013
WINTER

平成25年12月発行 鳥羽商船高等専門学校
広報・公開委員会「広報誌専門部会」
三重県鳥羽市池上町1番1号 TEL 0599-25-8013



校祖 近藤真琴



- 校長式辞
- 就職・進学
- 海事人材育成プロジェクト
- 国際交流
- 学生活動の紹介

- インターシップの現状
- 乗船実習
- 国際人近藤真琴先生と本校の創立
- 学校通信

校長式辞

平成25年度卒業式・商船学科・専攻科（海事システム学）

校長 藤田 稔彦

本日ここに多数のご来賓ならびに保護者の皆様ご出席のもと、平成25年度、鳥羽商船高等専門学校「商船学科卒業証書授与式」ならびに専攻科「海事システム学専攻修了証書授与式」をとり行い、これからわが国の産業や科学技術を担っていくフレキシブルな人材を社会に送り出すことができますことは、本校教職員・在校生一同にとりまして、この上ない喜びであります。

本日、商船学科を卒業された航海コース15名、機関コース13名の皆さんは、5年6ヶ月の高等教育の課程を修了し、準学士の称号を授与されました。また、専攻科海事システム学専攻を修了された1名は、商船学科を卒業後、この2年間でさらに高度な専門知識を修得され、大学評価・学位授与機構の審査にも合格し、近々学士の称号が授与されます。卒業生・修了生の皆さんの今日に至るまでの努力を称えま

すとともに、皆さんを物心両面から支えて来られた保護者・ご家族の皆様にも、心からお祝いを申し上げます。

商船学科を卒業された皆さんは、本校キャンパスや鳥羽丸における4年6ヶ月の席上課程の後、大型練習船で丸1年間に及ぶ厳しい実習・訓練を経験されました。このような経験は、普通の高校や大学の教育課程では得られない貴重なもので、皆さんの今後の人生において必ずやプラスになると信じます。

皆さんの多くは、取得した海技免状を活かし、航海士あるいは機関士として海運会社就職されますが、運輸関係のサービス業、機械その他の製造業、造船所など、専門に深く関係した陸上企業に就職される方もおられます。また、さらに勉学を重ねるべく、本校専攻科に進学される方や、国立大学に編入学される方もおられます。今や世界が高度情報化社会となり、経済のグローバル化が急速に進展する中、皆さんは、産業界とくに海事関連産業分野において、深い知識と広い視野を持ち、リーダーシップを備え、かつ日本人としてのアイデンティティをしっ

かり持った国際人としての活躍が期待されています。今後さらに英語力、コミュニケーション能力等の向上に努め、本校で培ってきた創造力、実践力を実社会でも存分に発揮できるよう努めてください。

本校の3つの教育目標、「ジェントルマンシップ、レイディシップ豊かな人間であること」、「創造性豊かな技術者となること」、「国際性豊かな社会人となること」。卒業後も皆さんはこの3つの目標を念頭に置き、各自新たに目標を立て、その目標達成に向けて、困難を乗り越えて行っていくと思います。ある経営者は、「必ずやれるものは目標とは言わない。目標が高いと人は伸びる、立派な知恵が出る。」と言っています。「目標」を「志」と言い換えてもよいと思います。

本校は、明治14年創設の鳥羽商船贅を前身とし、130年以上の長い歴史と伝統のある学校です。本校の卒業生は、国内外のさまざまな分野で活躍しています。今後、皆さんも本校で学んだことを誇りとし、自信をもって力強く人生を歩んでください。

最後になりますが、本日ここに28名の商船学科卒業生と1名の専攻科修了生を社会に送り出すことができました。これもひとえに保護者の皆様そして関係各位のご理解とご支援の賜物

と、本校教職員一同厚く御礼申し上げます。また、ご来賓の皆様にはご多用のところ、本式典にご臨席を賜り、卒業生・修了生の晴れの門出を祝福頂きましたことに心から御礼申し上げます。

卒業生・修了生の皆さん、鳥羽商船高等専門学校は皆さんの母校であると同時に、社会への旅立ちの母港、ホーム・ポートであります。海学祭あるいは同窓会などの折には、また元気な顔を見せてください。皆さんのこれから長い人生航路の安全と活躍を心よりお祈りして式辞と致します。



平成25年度 商船学科・航海コース
の進路について

商船学科・航海コース主任

石田 邦光

商船学科航海コースの平成25年9月卒業生数は15名で、就職が12名、進学が3名（留学予定者1名を含む）となりました。海運会社からの求人は、外航海運会社からの求人が減り、内航海運会社からの求人が増えました。就職先の内訳は次の通りです。外航海運では、八馬汽船に1名が採用されました。近海・内航海運では、商船三井フェリーに1名、名門大洋フェリーに1名、イースタンマリンシステムに1名、宇部興産に1名、大柿海運に1名、キャプテンラインに1名、神原ロジスティクスに1名が採用されました。また、オーシャンタグや海洋調査船の船舶管理・配乗を主に行っている共栄マリンに1名が採用されました。外航日本人船員確保・育成スキームにも1名が合格しました。陸上職では、旭運輸に1名、東洋信号通信社（船舶情報技術）に1名が採用されました。進学は、推薦による大学編入学で神戸大学海事科学部に1名が合格し、本校の海事システム専攻に1名が入学しました。

今年度の海上への就職については、2級以上の海技士筆記試験を取得していないこと、また外航に関してはさらに英語力不足が大きく影響したものと考えられます。現に、他校において、海技士の筆記試験合格者の多くは外航海運に採用されており、大手三社にも採用されました。外航海運会社については、大手三社が一般大学卒業生を船舶職員候補生として採用するようになりました。この制度に応募してくる学生は、一流大学の学生であり、英語はもちろん、非常に高い能力を持っています。このため、商船系の大学・高専からの採用者についても、彼らに匹敵する人材を求められることとなります。内航海運については、就職を希望する学生も増えてきましたが、会社の求める人材は将来会社を背負ってくれるような幹部候補生です。やる気だけではダメで、それを何らかの形で示さなければならず、海技試験の筆記合格が求められることになります。学生

諸君が希望する職業に就くためには、今何をしなければならぬのかを常に考え、今すぐに実行に移すことが重要です。就職は戦いです。武器無くして戦えません。

商船学科・機関コースの
就職・進学状況

商船学科・機関コース主任

伊藤 友仁

平成25年9月の機関コース卒業生は13名で、進路の内訳は12名が就職、1名が専攻科に進学です。就職者のうち、海上就職が6名（内航船社等）、陸上就職が6名でした。

近年、機関コース卒業生の海上就職が増加していますが、本校で目標とすべき外航船員になることができた学生は、極めて少ない状況が続いています。今後は、就活が始まる5年生の4月までに上級の海技士国家試験（筆記）に合格して、外航船社への就職にチャレンジしてほしいものです。そのためには、同時期に一定以上のTOEICスコアを獲得しておく必要があります。また、機関コースの特徴として、陸上企業への就職の道がありますが、こちらも最近では採用試験が厳しくなり、基礎学力等がないと苦労します。

海上、陸上とも就職のためにすべきことはいろいろあります。まず、1年次から英数国語、全ての授業をまじめに受け、基礎学力をしっかり身につけることです。これは、採用試験（面接試験、学力試験、SPI、適正検査、作文等々）で必ず役立ちます。高学年では、日頃から新聞やニュースを見て、教養を高めてください。また、英語のTOEICスコアは高専一般の目標値（400以上）を目指すべきです。その他、礼儀や言葉づかいを含むコミュニケーションの基本を日頃から身につけておく必要があります。また、クラブ活動で心身ともに鍛えることも忘れてはいけません。

就職・進学について

電子機械工学科長

廣地 武郎

電子機械工学科の本年度の5年生34名の進路は、進学7名、就職25名、未定2名です。進学については、本校専攻科4名、豊橋技術科学大学2名、北海道大学1名です。就職に関しては、中部電力、JRE東海、富士電機、東芝などのいわゆる大手をはじめとして、シンフォニアエンジニアリング、安川エン지니어リング、菱電工機エンジニアリング、日立ビルシステム、東芝エレベータなど多くの企業に内定しています。花王、沢井製薬といったところにも決まっています。企業は電子機械工学科の複合性（電気＋機械＋制御・情報）による知識技能を期待しているようです。残りの2名もあと少しで決まりそうです。（10月30日現在）

景気低迷による企業の採用手控えはまだまだ続いており、内定に至るまで4、5回の挑戦という学生もいました。求人企業数そのものは370ほどもあり十分に応募できる数ですが、厳しく選考されているのが実情です。早々に内定が取れる者は、やはり、協調性（明るく元気、受け答えがはっきりできる）と基礎学力を備えている学生です。年度あるいは企業によっては、元氣さだけで採ってくれたのかなどと思うような例もありますが、基礎学力は押さえておく必要があります。

就職活動に必要なことは、自分の志望と適性を十分に考えて、企業研究を行うことです。職種、勤務地、待遇等、学生にとってはまだまだ具体的に乏しい事柄かもしれませんが、それなりに考えることが必要です。学校内外で行われる会社説明会には積極的に参加して、仕事をすることのイメージを作りに上げてほしいと思います。また、これだという会社があれば会社訪問をどしどしするのがよいです。

あらゆる試験に言えることですが、準備をすることが重要です。なんとなく受けにいつて通れば儲けもの、自分のいいところを向こうが探してくれる、なんて事はないわけです。「御社に入り私はこういうことで貢献できます。」と言えるようにしておいてほしいのです、はったりでも。

制御情報工学科の進路状況について



制御情報工学科長

榎本 隆二

リーマンショック後の平成21年度から、就職希望者にとっては厳しい冬の時代が続いてきました。特に、ひとり目の内々定者が出るまでに1ヶ月ほどもかかった年があり、クラス内に絶望的な雰囲気も漂ったことを記憶しています。

しかし、本年度は超円高の是正が進んだこともあって企業の採用意欲が高く、4月中旬には早くもひとり目の内々定をいただきました。5月末までには企業への就職希望者の大半が内々定し、受験先企業との相性の調整に手間取った学生も含めて、民間への就職希望者は7月前半には全員の就職先が決定しました。米国の金融緩和縮小、消費増税など、今後の企業の採用動向への懸念が全くないわけではありませんが、少なくともリーマンショック前の状態にほぼ復帰したと判断しています。

さて、近年の採用傾向ですが、少なくとも30代には小規模のプロジェクトや少人数のチームをまとめて業務を自律的に遂行できるリーダー的資質が重視されます。逆に、40代になっても言われたことしかできず、仕事を自主的に進められない人材と判断されないよう、日々の課題や宿題、クラブ活動や学生会活動に積極的に取り組んでください。何よりも、そのような資質を証明できるエピソードの積み重ねが必要です。特に、プログラミングコンテストなど、各種コンテストへの参加実績は貴重です。さらに、身の回りの社会人（親類縁者を含む）と様々な話題についてフォーマルな会話を繰り返し返して、採用面接に備えてください。

現4年生に対する採用活動はすでに始まっており、11月初旬現在です。数社の人事担当者が来校されています。12月からは恒例の学内企業セミナーも始まります。本校卒業生や人事担当者による企業説明会で、約1時間に渉って会社の業務紹介や福利厚生、社内の雰囲気など、本音の話を聞くことができます。進学者のためのセミナーもあります。積極的に参加して下さい。下級生も参加できます。

専攻科の就職・進学状況（今年も良好です）



専攻科長

坂牧 孝規

最近の専攻科は、就職にも有利、進学にも有利と言える状況になってきました。就職活動は、5月末までに、ほぼ全員の就職先が決まります。これは、大学学部の就職状況を上回るものです。大卒資格である学士の学位を取得して、就職を希望する学生にとって、専攻科への進学はお勧めです。大学院への進学についても、京都大学、九州大学、東京工業大学などの大学院にも合格するようになってきました。

今年の具体的な就職内定先は、海事システム学専攻が旭タンカー(株)、生産システム工学専攻がDIC(株)、日本ヒューレットパックス(株)、NTTファシリティーズ、サンリットオートメーション(株)、コスモスコーポレーション(株)、進学内定先は、生産システム工学専攻が、京都大学大学院、豊橋技術科学大学大学院となっています。今年は学生数が少ない年ではありますが、昨年に引き続き、就職・進学は良好な結果となりました。

本校専攻科では就職支援として、就職後学生と企業とのミスマッチを少なくするために、教員が複数回企業訪問するなど、企業人事担当者との情報交換を図っています。また、学生が早期から就職先として有効な優良企業にアプローチできるように、インターンシップ先の開拓にも努めております。しかし、就職・進学が良好なのは、教職員による支援以上に、専攻科自身の意識の高さにあるかもしれません。専攻科の学生は、日頃、レポート作成、実験、特別研究と、遅くまで学校に残っている学生もいるようです。また、学会発表や語学研修などにも積極的に参加している学生も多数いるようです。専攻科における学生の成長はめざましいものがあります。専攻科修了時の修得した証書の価値は、学生自らが挑戦し試行錯誤して獲得した能力で決まります。学生が「他のものでは代替えのきかない唯一の能力が獲得できる」ように、専攻科スタッフ一丸となって、学生支援に努めていきたいと考えています。

平成24年度卒業生進路先一覧（順不同） 平成25年3月5日現在

商船学科

- 就職先 日本郵船(株)、川崎汽船(株)、NSユニティ海運(株)、日本海洋掘削(株)、日之出郵船(株)、東海汽船(株)、鹿児島船舶(株)、(株)東洋信号通信社、美須賀海運(株)、津軽海峡フェリー(株)、伊勢湾マリンサービス(株)、ユニバーサル造船(株)、太平洋フェリー(株)、商船三井フェリー(株)、旭タンカー(株)、太平洋汽船(株)、(株)旭メンテックス、宮崎カーフェリー(株)、Celeste holding Pte.Ltd.
- 進学先 東京海洋大学 海洋工学部、神戸大学 海事科学部、鳥羽商船高等専攻科（海事）
- その他 外航日本人船員確保・育成スキーム

電子機械工学科

- 就職先 中部電力(株)、出光興産(株)愛知製油所、日本たばこ産業(株)東海工場、本田技研工業(株)、三井造船(株)、東ソー(株)四日市事業所、テルモ(株)、ユニバーサル造船(株)、ミヨシ油脂(株)、日立ビルシステム、三菱電機ビルテクノサービス(株)、(株)沖電気システムアドテック、(株)菊川鉄工所、オムロンフィールドエンジニアリング(株)、三菱電機エンジニアリング(株)、安川エンジニアリング(株)、東レ・プレジジョン(株)、(株)エヌ・ティ・ティ・ネオメイト、島津メディカルシステムズ(株)、ムラテックCCS(株)、テラテック(株)
- 進学先 電気通信大学 情報理工学部、豊橋技術科学大学 工学部、鳥羽商船高等専攻科（生産）

制御情報工学科

- 就職先 関西電力(株)、中部電力(株)、東海旅客鉄道(株)、コスモ石油(株)四日市製油所、東邦ガス(株)、(株)NTTファシリティーズ東海、(株)日立ビルシステム、(株)P.F.U.、(株)NTTデータコミュニケーションズ、東芝産業機器製造(株)、(株)イーウェル、ミラクル・リナックス(株)、オムロンフィールドエンジニアリング(株)、(株)メイテックフィルダース、(株)フォーラムエンジニアリング、モラバ阪神工業(株)、(株)日新システムズ、富士ゼロックス三重(株)、(株)ソフトリンクス
- 進学先 電気通信大学 情報理工学部、金沢大学 数物科学類、豊橋技術科学大学 工学部、鳥羽商船高等専攻科（生産）、専門学校

平成24年度専攻科修了生進路先一覧（順不同） 平成25年3月5日現在

海事システム学専攻

- 就職先 旭タンカー(株)、(株)三越伊勢丹ビルマネジメント

生産システム工学専攻

- 就職先 富士電機(株)、(株)NTTファシリティーズ、NECフィールディング(株)、メタウォーター(株)、サントリプロダクツ(株)、(株)エヌ・ティ・ティ・ネオメイト、(株)エム・システム技研、旭電器工業(株)、エフ・ビー・ツール(株)
- 進学先 九州大学大学院、豊橋技術科学大学大学院、奈良先端科学技術大学院大学

国際交流

海事人材育成プロジェクト における本校の取り組み

本校プロジェクト総括

石田 邦光

本プロジェクトの取り組みについては、今年の夏に発行されました78号の学校だよりで、その概要は紹介させていただきました。今回は、本校での取り組みについて簡単に紹介したいと思います。本校は、「新たな海事技術者に必要な資質の涵養」プロジェクトの総括校であり、「英語力（コミュニケーション力）向上プログラムの開発」サブプロジェクトの担当校になっています。

本サブプロジェクトは、新たな海事技術者としての資質に求められている基本的なコミュニケーション能力、基礎的な英語力の育成を試みるものです。卒業時におけるTOEICスコア500以上を目指し、連携機関と協働して新たな英語教育プログラムを開発し、その構築と展開を目指します。実施する内容と本校における取り組み状況を以下に紹介します。

① 商船学科・教育補助員（非常勤／特命助教等）による英語教育

カナダ出身の Woods David John 先生を特命助教として採用し、授業日には1日6時間勤務していただいています。放課後を中心に時間割りを作ってもらい、TOEIC対策、英会話対策に取り組んでもらっています。Woods 先生は、英語専門のグローバル教育拠点として整備した部屋に常駐しており、商船学科の学生は自由に教育を受けることができます。そのようなになっています。

② 英語表記の商船学科・専門教材・教科書の開発

商船学科の専門科目における英語力育成支援を目指して、英和併記の専門教材を作成しています。いずれ、電子書籍として学生には活用してもらう予定です。

③ 商船学科専門教員の英語外地研修

商船学科の専門科目における英語の利用促進、英語による授業展開を目指して、商船学科・専門教員の英語外地研修を本年度から実施しました。本校からは2人の若手教員にハ

ワイのKCC (Kauai Community College) において3週間の研修を受けてもらいました。今後、毎年2名程度を同研修に派遣する予定です。



グローバル教育拠点（一番奥が教員のデスク）

海事人材育成プロジェクト 私の指導内容

ウッズ・デイビッド・ジョン

私の仕事は、主に学生のTOEICスコアおよび英会話の向上をさせることです。両者は関連しあっているもので、各々について順番にお話します。

TOEICはリスニング、リーディング、単語の分野での力が必要です。ほとんどの学生たちはTOEICの受

験経験が無いか少ないようです。最優先は、テストの内容について説明すること、学生のTOEICスコアを上げるためのリスニング、リーディング、単語を強化します。

テストは様々な広範囲から出題するため学生はそれらのエリアのキャパシティを強くしなければなりません。例えば、要点を重視して読むのか詳細に重視するのかが異なります。TOEICは特にこれらの技術を両方とも要求します。単語を覚えるのは面白くありませんが、とても重要です。したがって、私はさらに言葉の学習に時間を費やします。また、TOEICテストも他のテストと同様に、戦略がありますのでこれらの戦略を規則的に教えています。（TOEICは問題数が多く時間も少ないので）

私の部屋は、英会話や英語を学んでいる学生にも開放されています。私の英会話レッスンはあまり厳しくありません。どちらかと言うと楽しく実用的でネイティブが使うような話し方を勧めています。この方法で生徒たちはリラックスができ、自由に話せるようになります。一人でも多くの生徒が英会話に自信を持って話せてくれたらと思います。最後に、私の部屋はどんな生徒でも歓迎します。たくさんの学生が来ることを望みます。

船舶運航実務乗船研修に参加して

商船学科機関コース教員
今井 康之

参加した研修は、日本郵船株式会社
の NYK TERRA（コンテナ船）に乗
船し、運航の現状を視察調査するもの
であった。乗船した船は外航船であ
り、航路は中国の港を複数まわるもの
で、出入港の様子が幾度と見られたこ
とは、非常により経験であった。機関
や操船に関わる作業のみならず出入港
や荷役に関する実務を多く見学するこ
とができた。

約10日の乗船日程中、錨泊を除き5
ポートの入出港があり船内は比較的慌
ただしい様子であったが、船長をはじめ
とし乗組員の方々から寛容な対応を
していただいた。

具体的な研修内容は、船体の見学に
始まり船首、船尾、船橋、制御室、機
関室での出入港見学、当直業務の見学
であり、話を聴きながら作業手順も見
ることができた。またコンテナ船特有
のリーフアーについても見学し乗組員
から話を聴くこともできた。

更に乗船した船
は社船練習船でも
あり、自社養成の
訓練生および教員
が乗船していたた
め、実務に即した
教育方法について
様々な知見を得る
ことができた。実



習内容は実践につながるものばかり
で、機関系でいえば理論に関わる内容
は、図面や配管図を基にイメージし、
わからないところを教科書や現場で確
認する方法が取られていた。機関士は
問題機器の構造を想像し、関係する現
象を知識と経験から判断して原因を突
き止めることができ、適切な指示を出
せることが大切であるといった話も
あった。今回の研修を本校で教育に生
かしていきたいと思う。

教員英語外地研修に参加して

商船学科航海コース教員
吉田 南穂子

9月4日（22日）に、カウアイ・コ
ミュニティ・カレッジ（KCC）にお
いて、商船系高等専門学校の教員を対
象とした英語研修に参加しました。本
研修では、英語の授業以外にも授業の
見学、カウアイ島の日系移民の歴史、
ハワイの文化交流など多くのプログラ
ムが行われました。

また、個人研究ではKCCの安全管
理担当のスタッフに学校の安全管理に
ついて話を聞くことができました。ス
タッフとの面談では、なるべく文章と
なるような会話を心掛けコミュニケー
ションを取ることができるようになり
ました。しかし、自分のヒアリング能
力に合わせて面談をしていたのだと
で、今後は「聞く」能力の向上が課題
と思いました。

最終発表では、英語の授業の中で学
んだ対象物を比較するときの発表方法

を参考に、発
表用のスライ
ドを作成しま
した。発表

は、実習実験
の安全管理を
調査した理由
（目的・動機）、
鳥羽商船とK
CCの比較

（比較対象の紹介）、安全管理上の同意
点、相違点、結論という流れで行いま
した。特に注目した点として、両校と
も安全靴や作業着を忘れた場合は実験
実習に参加できないこと、日本の教育
機関では安全と心の健康を関連づけて
考えられていないことを挙げました。
もちろん、KCCと本校は規模や学生
の年齢層、教育システムが異なるた
め、単純に比較はできないと感じまし
たが、この研究を通して、教育システ
ムの違いを見るだけでなく、英語での
発表方法を学ぶことができました。

KCC教員語学研修

商船学科機関コース教員
小田 真輝

この夏、ハワイのカウアイ島にて行
われた教員英語現地研修に参加しまし
た。この研修は今年度から行われるこ
とになり、学生ではなく教員を対象と
し、高専での専門科目における英語の
利用と英語による授業展開を目指した
ものです。期間は2週間半で、今回は
全国5商船高等専門学校から8人の教



員が参加しました。

現地ではカウアイコミュニティカ
レッジ（KCC）に通い、KCCの実
際の授業を聴講したり、英語の授業を
受けたりしました。私は自動車整備に
ついて学ぶ学科の溶接実習や、ハワイ
の歴史、文化人類学の授業に参加しま
したが、日本の学校の授業スタイルと
はだいぶ違いました。大きな違いは授
業がデイスカッション形式で行われる
ことです。先生と学生たちが活発に意
見や質問を投げ合い、居眠りをする学
生はいません。英語の授業では、英語
でのプレゼンテーションについて学び
ました。研修中に各々がテーマを決め、
調査し、最終日にはKCCの教職員に
対して発表を行いました。私はハワイ
と日本との教育制度の違いや、就職活
動についてKCCの学生カウンセラー
や就職担当の先生にインタビューし、
発表しました。KCCの教職員もやは
り自国との違いに驚いていたようです。
今後、私が担当する授業で英語やK
CCの授業スタイルを少しずつ取り入
れていきたいと思っています。今考えて
いるのは、授業
の始めに英語
で前回の復習
をすること
です。固く考え
ずに、学生と
共にいろいろ
な事に挑戦し
ていこうと思
います。



SMA鳥羽丸トレーニングに参加

生産システム工学専攻1年
山本 孝友

私はSMAの学生をサポートするためSMA鳥羽丸トレーニングに参加しました。このプログラムは4日間の実習と、2日間のフィールドワークで構成されています。実習では船での生活を体験したり実践的な勉強をしたりし、フィールドワークでは伊勢や名古屋などで社会見学をします。

鳥羽丸のことも伊勢のことも名古屋のことも英語のことも知らない私には不向き極まりないものです。そんな不適任者代表、兼サポートメンバー代表の私は様々な命を受け、その一つ一つに手間取りました。移動や集合の指示、鳥羽丸についての説明や質問への返答、学校や地域の案内、と私にとっては日本語でも困難なことばかりです。案の定何度も失敗して迷惑をかけました。しかし、先生方や学生達に助けられ、「never mind」の言葉を貰いながら無事役目を終えることができました。個人ではサポートメンバーとして赤点の私でも皆さんの力添えのお蔭で及第点をとることができたのではないかと思います。



MEクルーズ

商船学科機関コース3年
坂上 桐乙

9月26日から10月2日の日程でMEクルーズが行われ、学生5名、教員2名の総勢7名がシンガポールを訪問しました。初めの2日間はSMAの学生と学校見学やマライオン・植物園などのシンポール観光をしました。残りの4日間はアジア圏の様々な国の学生と一緒に客船へ乗船し、船内において国際社会におけるマナーやモラルに関する講義や研修を受けました。

今回私がMEクルーズに参加した目的は、1人でも多くの人と関わり、英語力を身につける事でした。乗船中の講義の時に、隣にシンガポールの学生が座りました。思い切って私は、「Hi」と声をかけました。すると、「Hi」と返してくれて、「Teach me Japanese」と言われました。それがきっかけで、一緒に食事をしたり、ブーケットへ行きました。たくさん話をしたおかげで、英語に自信をもつ事が出来ました。この経験を活かして、これから英語を勉強していきたいと思っています。



シンガポールホームステイ

制御情報工学科5年
橋井 莉沙

シンガポールでのホームステイした3週間は、たくさんの経験で充実した時間の流れが早く感じました。私のホストファミリーは中国系のシンガポール人で、ご夫妻と高校生の息子さん娘さんの4人家族でした。皆さんいつも気にかけて笑顔で接してくださり、とても親切でした。毎日用意してくれる朝食もおいしくて、一日の初めの楽しみでもありました。また、私の他にも数人の留学生を受け入れていらして、私の隣の部屋にはネパール人のご夫婦がホームステイしていました。

通っていた語学学校には、日本以外にも韓国、タイ、カンボジア、ロシア、ドイツ等から生徒が来ていました。年齢もバラバラで幼稚園児ぐらいの子供から、10代20代の学生、また、ビジネス英語を学ぶ社会人の方まで幅広くいました。そういった人達と一緒に授業を受けたり、放課後は一緒にシンガポールの街へと繰り出したりした時間は自分にとって有意義かつ、とても貴重なものとなりました。



鳥羽商船に留学して

制御情報工学科5年
ザヤー

鳥羽商船に留学する前は、三重県に知り合いもいなくて、日本語での授業を理解できるのか不安がいっぱいでした。しかし、来てみれば先生方やクラスメイト、先輩方が勉強を分かりやすく説明してくれました。また、勉強に限らず、面白い話や様々な意見を聞かせていただきました。このような体験から、もっと色々な国に行ってみて、多くの人と接して、異文化に触れてみたいと思うようになりました。

また、全国高専プロコン、イマジジンカップなどのコンテストに参加してきました。これによって、授業では体験できない貴重な経験をできました。そして、コンテスト、実験、インターンシップを通じて、技術者はものを作るどの段階でも「まあ、いいや」と思っているのではないと感じるようになりました。明確にプランを立て、細かく考慮して作り、相手に分かりやすく説明をできるようになるためこれからも頑張りたいと思います。



学生活動の紹介

海学祭を終えて

制御情報工学科5年
山村 京太郎

こんにちは、海学祭実行委員長の山村です。今年も学生会主催の行事、海学祭が終わりました。今年度の海学祭を迎えるにあたり、学生会一同全力を尽くして参りました。この海学祭は本校で行われる学生会主催の行事の中で、一番歴史の長いもので、本海学祭で第48回目となりました。

さて、今回のテーマは「トバノミクス」。このテーマには、「鳥羽商船が主体となって鳥羽の発展・成長を支えている」という意味が込められています。

また、今年度の海学祭は天候の面で非常に恵まれていました。ここ3年間



は海学祭の日は雨が続きましたが、今年は風ひとつ吹かない見事な晴天。そのおかげか来場者数が例年に増して多く、非常に大きな盛り上がりを見せました。

私は、この海学祭に携わり、非常の多くの体験をしました。特に資金面、技術面におきまして、様々な方のご協力、ご支援を受けました。この場を借りてお礼申し上げます。ありがとうございました。

プロコン最優秀賞・文部科学大臣賞受賞

制御情報工学科3年
稲田 樹

私たちは、第24回プログラミングコンテスト・自由部門において最優秀賞・文部科学大臣賞という素晴らしい賞を頂きました。この結果が得られたのは、チームの仲間と休日や夏休みの間も学校に来て作業を行い、それぞれが得意な分野で頑張り、協力して1つのものを作りあげることができたからだと思っています。

今回のコンテストを通じて貴重な経験を積むことができました。学校の先生方、事務職員みなさまの協力はもちろん、同窓会からのたくさんの応援をいただきました。この場を借りて改めてお礼を申し上げます。来年からの

コンテストでも今年に負けないような結果を残せるように一層の努力を重ねていきたいと思っています。出品した作品は3号館1階に展示していますので皆さんぜひ一度触ってみてください。



高専ロボットコンテスト2013 東海北陸地区大会で特別賞

電子機械工学科3年
西村 竜弥

今回の高専ロボコン（アイデア対決・全国高等専門学校 ロボットコンテスト2013 東海北陸地区大会）では結果から申しますと、どのチームよりも高くジャンプし会場を沸かせたその技術が評され、TANAKAホールディングス株式会社から送られる特別賞『田中貴金属グループ賞』をいただきました。

特別賞とは、高専ロボコンの協賛の各5社から授与される特別な賞です。しかし、今年はこの結果にいたるまで

が非常に大変でした。一番長くロボコン同好会に所属し、経験豊富なのは自分だけ。そのほかの部員はロボコン2年目と今年入った1年生だけでした。

ロボットの完成が遅かったため全体の重量の調節が上手くいかず、会場で重量測定を行うと規定15kgの所を1.6kgもオーバーしていました。ピットと加工場を何回も往復し、削れるギリギリまでフレームを削ったり、装飾用の駆動パーツや外装をはずしたりして何とか重量制限をクリア。そして、本番への出場に何とか間に合い出場しました！

カッター部

商船学科航海コース3年
岩場 大明

カッターとは艇長艇指揮を含む14人で9メートルの救命艇を漕ぎ進め1500メートルをより速いタイムでゴールしたほうが勝ちという商船高専ならではの部活動です。

私達カッター部は現在、部員数は男女を含む35人で活動しています。主な活動内容としては春から秋にかけては





海の上でカッターを漕いでいます。

また冬は主に陸の上で体カトレーニングをしています。

過去の大会

結果として、私達が一番の目標にしている高専大会で現在A艇の部では、弓削商船の6連覇という記録を抜き大会新記録となる7連覇を達成し、B艇の部でも6連覇中です。その他にも東海大会という大会が秋に行われており、

今年は優勝できずとても悔しい思いをしました。

この悔しさをバネにしてより一層練習に励み来年の高専大会での連勝記録更新、東海大会での優勝を目指して頑張ります。

ヨット部

商船学科航海コース3年
関屋 聖

本校のヨット部は、学校の前の池の浦湾と津のヨットハーバーを拠点に活動しています。

今回ヨット部員である私は、東京で行われた第68回国民体育大会セーリング競技少年男子セーリングスピリッツ

級の三重県代表として出場しました。

結果は28位と振るいませんでしたが、大会が終わってみれば、出場までの過程で多くのことを学び、全国大会という舞台で戦えたということで、自分の中で大きな自身となりました。団体では、約一週間、全国のセーラーと練習から試合までを行い、自分たちに足りないものを知ることができ、また、他県のヨット部の人とも交流することもできたため、人生においてとても良い経験になったと思います。

今後は、漕艇大会優勝とインターハイ出場、国体出場を目指し、今回の経験をヨット部の後輩に伝えることで、ヨットにより興味を持ってもらい、彼らがさらに高いレベルで戦えるようにサポートしていきたいです。



水泳部

電子機械工学科3年
森 英悟

水泳部は男子部員19名、女子部員1名の総勢20名で部活動を行っています。ベストシーズンは4月下旬から9月下旬です。この間はプールで泳ぎます。活動時間帯は、午後4時から6時です。練習は初級者と経験者に分け、その中で自分の得意種目、大会出場種目別に練習メニューを作っています。練習時間の最後30分間は、全体練習として、リレーやタッシュといった大会に向けたメニューをしています。

主に出場している試合は、鈴鹿高専との交流試合、インターハイ、高専大会です。シーズンオフは日没時間までの活動となり、部室にあるダンベルやバーベルを使った筋力トレーニングや学校のまわりをランニング、月に一回温水プールへ行き泳ぎこみといった活動をしています。

時にはBBQなどの催しも行っています。写真は過去にプールサイドで行ったBBQの時のものです。水泳部は「仲良く、楽しく」活動しています。



少林寺拳法部の活動

商船学科航海コース4年
内田 宇紀

私たち少林寺拳法部は、1年生8人、2年生1人、3年生4人、4年生3人、5年生2人の計18人で活動しています。月、水、金の週に3回、柔道場で練習を行っています。まず、全体での基本練習から始まり、昇級試験や昇段試験に向けて新しい技の練習を移り、三重県大会や全国大会に向けての演武の練習を行っています。

今年は8月に大阪で世界大会があり、本校から3名の部員が出場しました。10月には三重県大会が開催され、男子単独演武三段以上の部で最優秀賞、男子組演武級拳士の部で優秀賞、女子組演武有段の部で最優秀賞という成績を残すことができました。道場では基本的な練習を中心にして、ひとりひとりが自分自身を磨くために一生懸命練習をしています。来年も良い成績を残すことができるようにがんばります。



インターンシップ報告

商船学科の インターンシップについて

商船学科長 石田 邦光

商船学科のインターンシップは、4年生の夏季休暇中に実施しており、毎年、ほぼ全員が参加しています。期間はほとんどが1週間程度で、外航海運会社による陸上研修、内航海運会社による乗船研修、造船所、物流関係企業等があり、中には海外で研修を行う企業もあります。

インターンシップに参加すると、5年生で開講されている海技実務Ⅲ（選択科目）の1単位が修得できます。ただし、本年度は大型練習船による乗船実習制度の変更に伴う移行期のため、4年生は8月22日～9月21日が乗船実習となり、なおかつ夏季休暇が8月10日からということで、インターンシップを行える期間が8月12日～8月16日に限定されてしまいました。このため、参加できる会社も3社に限られ、34名（留年者を除く）中、14名の参加に留まりました。また、来年度の4年生は4月～9月に6ヶ月の長期乗船実習があるため、インターンシップへの参加は非常に厳しいと考えます。

電子機械工学科の インターンシップ

電子機械工学科4年学級担任 宮崎 孝

平成25年度電子機械工学科4年生（M4）のインターンシップ参加学生は20名で、クラスの約45%の学生が参加しました。これは、例年より若干多めの参加者となっています。一時期よりもインターンシップの受け入れ企業は増えている印象ですが、公募型で参加者を応募書類で選考する場合も増えています。M4でも公募型の4社に応募し、3名が実習を受けることができました。実習先は17社1大学で、偏りなく色々な分野と地域となっています。我が校のように8月と9月に夏休み期間が変更となっている高専と、以前のままの高専の両方に対応するため、実習期間を8月のお盆明けにしている企業が多く、M4の実習もこの期間に集中しました。実習日数は、5日と10日の所が半々でした。

現在、実習報告書の提出、実習発表会を終えたところです。参加した多くの学生は、企業や他高専生に触れたことで刺激を受け、学習や進路決定へ良い影響があったようです。

インターンシップの現状

制御情報工学科4年生担任

出江 幸重

最近のインターンシップでは、企業側からエントリーシート、レポート、履歴書などの提出を求められ、それらをしっかりと書かないと採用されない場合があります。志望の動機、自分は何ができるのか、どのようなスキルがあるのかなど、自分をうまくPRできれば採用されません。また、テレビ電話や電話などで直接面接や面談を行う企業もあります。

本年度は、100社以上の企業、大学、研究機関等から回答があり、約70社の企業から受け入れ可能な返事がありました。希望の会社がない、希望しても落選する等の場合もありましたが、制御情報工学科4年生からは、クラスの約半数の19人の学生がインターンシップに参加しました。また、10月末には発表会を行いました。学生の発表を聞いて、学生たちは、インターンシップを通じて自分や仕事・業界・社会の理解を深める、勤労観を培うなど、普段学校ではできない多くのことを学ぶことができたと感じました。

大型練習船実習を体験して

商船学科航海コース4年

谷水 聖奈

私達は夏休みの1ヶ月間に練習船に乗って乗船実習をしました。今回の乗船実習は、学校の練習船「鳥羽丸」での実習とは違い、鳥羽丸より大きい「大成丸」と「青雲丸」の2隻に別れて、他商船高専や神戸大学、東京海洋大学の学生と一緒に実習をしました。船での生活は、最初は慣れないものの、1週間もすると初めて知り合った子とも打ち解けて仲良くなっていました。練習船の士官の方々もいい人ばかりで優しく、厳しく指導をしてくださいました。

1ヶ月というのは、始まってしまうと、とても短くあっという間に終わってしまいました。みんなで食べた美味しいご飯や怒られながらいろんな事を学んだ操練、計画を立てて楽しみにしていた上陸など、たくさん思い出を作ることができました。とても充実した1ヶ月間で、すごく貴重な経験になりました。来年の10月から本格的に始まる乗船実習が楽しみです！



国際人近藤真琴先生と本校の創立

電子機械工学科 水野 逸夫

1. 先生の学問修養と攻玉社の創立

近藤先生は天保2年（1831）に江戸麹町にあつた鳥羽藩主稲垣氏の邸内で生を受けた。父・珍兵衛は微禄ではあつたが学問の名家・菅原氏の血統であつた。その父は先生が数え年4歳の時に早逝し、母・誠子に8歳まで読み書きの基礎教育を受けた。その後、藩校の造士館、尚士館に学び、皇漢学と教養、和魂を身につけた。

嘉永6年（1853）、ペリーが来航し、動乱の時代が幕を開けた。「時事を感じた」先生は意を決し、蘭学、兵学、数学、航海測量などの洋学の勉強に明け暮れることになった。その修養ぶりが藩主に認められ、安政2年（1855）には鳥羽藩初の蘭学方に任ぜられた。先生の自宅に教えを乞う人が現れ始め、文久3年（1863）には、自宅を私塾として蘭学を教授するようになった。攻玉社中学校・高等学校ではこの年を学校の創立年としている。その後、慶応元年（1865）には英語の学習と教授を始めている。

先生は攻玉社の経営にたずさわる一方で、海軍兵学校にも勤務し、明治15年（1882）には兵学校教務副総理という要職についている。公私とも非常に多忙の中、ドイツ語を学んだり、幼児教育、女子教育、「かな文字運動」の推進など多方面で活躍した。

2. 先生の洋行

明治6年（1873）、先生はオーストリアのウィーンで開催された万国博覧会に、海軍六等・一級事務官として派遣された。先生が書いた、横浜からイタリアのトリエステまで、2ヶ月ほどの航海日記が残されており、これを読むと先生の旺盛な好奇心と鋭い観察眼が察せられて面白い。先生がこの洋行によって得たものは、その後の先生の活躍によって明らかである。

3. 本校の創立

先生が鳥羽の地に住んだのは、文久2年（1862）～3年にかけてと明治元年（1868）～2年にかけての2回で合計2年間程度の短いものであった。しかし、先生は郷里鳥羽を深く愛し、鳥羽港が古来より海運の要路であることを是として、この地での海員の養成を決意した。

明治14年（1881）8月に攻玉社の分校として本校は創立された。その資金には先生の家禄奉還金の全額と攻玉社、三重県の補助金が当てられている。

創立に先立ち、先生が筆を取った「鳥羽商船疊設立主意書」は、イギリスを例に引き、海運立国とその人材の地を鳥羽に求めようとする先生の熱情が吐露されている。論理が明快で感動的な名文である。

（長文であるのでここに掲載できないのが残念。本校の「百年史」で読んでください。）

4. 商船教育110年記念切手の発行

先生が攻玉社に航海測量練習所を設立して海員教育を始めたのが明治8年（1875）9月。同年の11月に岩崎弥太郎が三菱商船学校（現在の東京海洋大学）を開設している。昭和61年（1986）7月26日、商船教育110年を記念する切手が発行された。図案は日本丸と近藤先生、岩崎弥太郎の肖像画である。写真で紹介するのは、その時に作られたマキシマム・カード（切手と同じ図案の絵はがきにその切手を貼り、これに関連する消印を押捺したもの）である。



『日本丸と商船教育の発展』水野 逸夫
"The training ship Mitsunaga and portraits
of founders of mercantile marine education
system" by Minoru HIRANO



商船教育110年のマキシマム・カード

工場見学

平成25年10月2日(水)～10月4日(金)に制御情報工学科4年生の、平成25年10月30日(水)～11月1日(金)に電子機械工学科4年生の工場見学を実施しました。就職活動の一環として、企業における実践的な技術を見聞することにより、技術系への仕事と企業への理解を深めることを目的としています。制御情報工学科は、新日鐵住金(株)名古屋製鉄所、JX日鉱日石エネルギー(株)、日産自動車(株)横浜工場を、電子機械工学科は三菱電機(株)名古屋製作所、三菱みなとみらい技術館、日産自動車(株)横浜工場を見学しました。

フィールドワーク

平成25年10月17日(木)に全2年生のフィールドワークを実施しました。教育活動の一環として、社会に対する視野を広めさせることを目的としています。青山高原ウィンドファームを見学し、伊賀市のホテルでテーブルマナー講座を受講しました。

平成25年度専攻科(海事システム学専攻)入学式挙行

平成25年度専攻科(海事システム学専攻)入学式が去る10月1日(火)10時30分から本校専攻科棟マルチメディア教室において挙行されました。藤田校長から励ましの式辞が述べられた後、入学生から、専攻科での2年間、技術者として社会に貢献できるように勉学に精一杯励み、悔いの残らないような学生生活にしたいとの挨拶がありました。

NPO法人 故郷の海を愛する会を後援

- 平成25年 7月27日(土) 練習船「鳥羽丸」で行く、造船所見学と、故郷の海山川
- 平成25年 8月20日(火) 「うみてらす14」・四日市港や「電力館テラ46」・川越火力発電所と周辺の見学など
- 平成25年 12月14日(土) もうすぐクリスマス 遊んで学ぼう! 商船学校の歴史・船と海の話

公開講座・出前授業実施

公開講座一覧 サイテクランドin 鳥羽

講座名	開催日
Wiiリモコンでゲームプログラミング(中学生)	8月3日(土)
おもしろ理科実験(中学生)	8月3日(土)
LEGOで自動走行ロボットを作ろう(中学生)	8月20日(火)
ソーラーカー作成(小学生)	8月20日(火)
手作り太陽電池(中学生)	8月21日(水) 8月22日(木)
君が船長 船でGo!(小学生)	8月22日(木)

秋の公開講座

講座名	開催日
小学生のためのバレーボール教室(小学生)	10月21日(月) 10月28日(月)



出前授業一覧

講座名	開催日
越賀小学校「LEGOを用いたロボット製作入門」	6月7日(金)
鳥羽小学校「LEGOを用いたロボット製作入門」	6月13日(木)
倉田中学校「Wiiリモコンでゲームプログラミング」	9月17日(火)
船越小学校「LEGOを用いたロボット製作入門」	9月30日(月)
安乗中学校「LEGOを用いたロボット製作入門」	11月9日(土)
滋賀県草津市立玉川中学校「船のいろいろ」	7月2日(火)

その他の講座

講座名	開催日
スナメリ観察クルーズ	5月11日(土) 5月12日(日)
みえアカデミックセミナー2013(三重県生涯学習センター)「海が持つエネルギーから電気をつくる」	7月28日(日)
練習船「鳥羽丸」の一般公開と体験航海(四日市港まつり)	8月4日(日)
みんなで楽しく遊ぼう!!ロボット教室(池上地区青少年健全育成会)	10月26日(土)
AEDの実技講習会(池上自主防災会)	10月30日(水)
練習船「鳥羽丸」による名古屋港PR活動及び一般公開	11月9日(土) 11月10日(日)

編集後記



学校だより第79号をお届けいたします。

本号では、本校の創立と国際化をテーマに編集しました。

近藤真琴先生により創立された本校は、世界の海で活躍する人材を育成してきました。常に世界と向き合ってきた本校にとって国際化は永遠のテーマであると思います。

本号により、本校の歴史と国際化の今の姿をお伝えできれば幸いです。

(伊藤(立)記)